

## 講師紹介



アトリカ&コミュニケーション  
代表

鳥屋部 陽子氏

YOKO TORIYABE

カラーデザイナー《アトリカ&コミュニケーション》代表。盛岡市出身。結婚、出産後に独学でカラーコーディネーター1級を取得。その後A・F・T認定カラーデザイナーとなる。色彩によって感じ方が変わるといふことに衝撃を受け、色彩心理学を更に本格的に学ぶ。色彩のプロとして、人にも環境にも優しいカラーデザインを目指している。

第8回  
2018.06.09

Main Theme

何色を選んだらいいかわからなかったら入学!

## “色のチカラを知ろう”講座

### 色彩が人に与える 影響はあるのか?

私たちの仕事では日々、色を扱いますが、今まで専門的に学ぶ機会がなかったため、今回の講義を依頼しました。  
基本的に「色は個人の好き嫌いで選ぶので自由」ですが、好き勝手に使ってはまとまりが無くなるので、心理に及ぼす影響を考慮した上で選択する事がカラーデザイナーの仕事とのこと。人間は五感の中で、視覚が87%を占めるそうです。その内約90%は色の情報と言われ、色が人に与える影響は大きいのです。個人的な「好きな色」必要「嫌いな色」避けた「色」とのこと。ワークとして嫌いな

色の理由をそれぞれが語る事ができたことからもわかるように「嫌いな色にはストーリーがある」そうです。これは「カラーヒストリー」と言われ、幼少期からの経験が大きく影響しています。なので、幼少期にたくさんさんの色に触れることはとても重要なことです。  
次に視覚効果について。色はそれだけでは存在せず、光があつてはじめて色が認識できます。屋外と屋内で色が違って見えるように、実際の色と見える色は違ふので「どう見えるか」を考えて色を選択することが重要です。日本では色を組み合わせる時

に調和を好むそうです。その中でも自然界の色(例…空の雲、青×白)が調和していると感じ、暖色や無彩色(白×黒)のグラデーションなど、複数列の組み合わせが心地よく感じます。約20人に1人に色覚異常があるとわれ「カラーバリエーション」が推進されています。デザインなどで色を選択する時はすべての人が公平に見える色使いを心がけたいですね。また、色は安全にも影響します。濃い色の階段は距離感が掴みにくく踏み外してしまふなど、公共の場では安全面から色を考える必要があります。  
身近な色が及ぼす効果は確実にあるので、色彩を考慮した上で仕事に活かしたいと考えるきっかけになりました。鳥屋部さんありがとうございました。

## すべての人が公平に見える色使いを心掛けよう



TANOSHIMU-UNIVERSITY COMMUNICATION

# たのしむ ユニバーシティ 通信

2018  
第008号  
発行所  
川上塗装工業株式会社  
盛岡市三ツ割 3-2-11  
電話 019-601-4014

